

「プレチラクロール農薬蜜蜂影響評価書（案）」についての
意見・情報の募集について

令和 7 年 3 月 26 日
農林水産省消費・安全局

この度、「プレチラクロール農薬蜜蜂影響評価書（案）」について、広く国民の皆様から意見・情報を募集いたします。

今後、本案については、提出いただいた意見・情報を考慮した上で、決定することとしております。

記

1 意見公募の趣旨・目的・背景

農林水産大臣は、農薬取締法（昭和 23 年法律第 82 号）第 39 条第 1 項の規定に基づき、農薬の登録、変更の登録等について、農業資材審議会の意見を聴かなければならないとされています。このうち、農薬の蜜蜂への影響評価に関する事項については、関連分野における高い知見を有する専門家で構成される農業資材審議会農薬分科会農薬蜜蜂影響評価部会で検討することとしています。

令和 7 年 3 月 5 日、第 16 回農業資材審議会農薬分科会農薬蜜蜂影響評価部会において、プレチラクロールについて審議され、プレチラクロール農薬蜜蜂影響評価書（案）が了承されました。

つきましては、本評価書案について、広く国民の皆様からの意見・情報を募集いたします。

2 意見公募の対象となる案及び関連資料の入手方法

（１）e-Gov (<https://www.e-gov.go.jp/>) の「パブリック・コメント」欄に掲載
（農林水産省ホームページにあるリンクからアクセスが可能）

（２）農林水産省消費・安全局農産安全管理課農薬対策室において配布

3 意見・情報の提出方法

（１）e-Gov の意見入力フォームを使用する場合

「パブリック・コメント：意見募集中案件詳細画面」の「意見募集要領（提出先を含む）」を確認の上、意見入力へのボタンをクリックし、「パブリック・コメント：意見入力フォーム」より提出を行ってください。

（２）郵送の場合

以下担当まで送付してください。

〒100－8950 東京都千代田区霞が関1－2－1
農林水産省消費・安全局農産安全管理課農薬対策室

4 意見・情報の提出上の注意

提出の意見・情報は、日本語に限ります。

頂いた御意見については、個人情報を除き全て公開される可能性があることをあらかじめ御承知おきください。ただし、御意見中に、個人に関する情報であって特定個人を識別し得る記述がある場合及び個人・法人等の財産等を侵害するおそれがあると判断される場合には、公表の際に当該箇所を伏せさせていただきます。

また、提出に当たっては、氏名及び住所（法人又は団体の場合は、名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地）並びに連絡先（電話番号又は電子メールアドレス）を明記してください。御記入いただいた個人情報は、提出意見・情報の内容に不明な点があった場合等の連絡や確認等に利用するほか、当該意見・情報の内容に応じて、農林水産省内の関係部署、関係府省等に共有することがあります。

なお、電話での意見・情報はお受けしませんので御了承願います。また、頂いた御意見に対する個別の回答はいたしかねますので、その旨御了承願います。

5 意見・情報受付期間

令和7年3月26日～令和7年4月24日

（郵送の場合も締切日必着とします。）

6 公示資料

プレチラクロール農薬蜜蜂影響評価書（案）

(案)

プレチラクロール 農薬蜜蜂影響評価書

2025年3月5日

農業資材審議会農薬分科会

農薬蜜蜂影響評価部会

目 次

<経緯>	2
<農薬蜜蜂影響評価部会委員名簿>（第 16 回）	2
I. 評価対象農薬の概要	3
1. 有効成分の概要.....	3
2. 有効成分の物理的・化学的性状.....	4
3. 申請に係る情報.....	5
4. 作用機作.....	5
5. 適用病害虫の範囲及び使用方法（41 製剤、別添参照）	6
II. ミツバチに対する安全性に係る試験の概要	9
1. ミツバチに対する安全性に係る試験.....	9
2. ミツバチ個体への毒性（毒性指標）	10
3. 花粉・花蜜残留試験.....	12
4. 蜂群への影響試験.....	12
III. 毒性指標.....	13
1. 毒性試験の結果概要.....	13
2. 毒性指標値.....	13
3. 毒性の強さから付される注意事項.....	13
IV. 暴露量の推計	13
V. 評価結果.....	14
評価資料	14
評価資料（公表文献）	14

<経緯>

令和 5 年（2023年） 1 2 月 1 5 日 農業資材審議会への諮問
令和 7 年（2025年） 3 月 5 日 農業資材審議会農薬分科会
農薬蜜蜂影響評価部会（第16回）

<農薬蜜蜂影響評価部会委員名簿>（第 16 回）

（委員）	（臨時委員）	（専門委員）
五箇 公一	中村 純	永井 孝志
山本 幸洋		横井 智之

プレチラクロール

I. 評価対象農薬の概要

1. 有効成分の概要

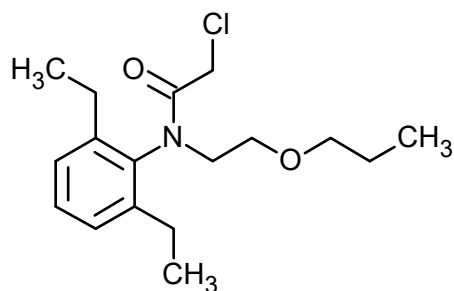
- | | |
|-----------|--|
| 1.1 申請者 | シンジェンタジャパン株式会社 |
| 1.2 登録名 | プレチラクロール
2-クロロ-2',6'-ジエチル-N-(2-プロポキシエチル)アセトアニリド |
| 1.3 一般名 | pretilachlor (ISO 名) |
| 1.4 化学名 | |
| IUPAC名 : | 2-chloro-2',6'-diethyl-N-(2-propoxyethyl)acetanilide |
| CAS名 : | 2-chloro-N-(2,6-diethylphenyl)-N-(2-propoxyethyl)acetamide
(CAS No. 51218-49-6) |
| 1.5 コード番号 | CGA26423 |

1.6 分子式、構造式、分子量

分子式

C₁₇H₂₆ClNO₂

構造式



分子量

311.85

2. 有効成分の物理的・化学的性状

試験項目		純度 (%)	試験方法	試験結果	
色調・形状		99.2	目視	ごくうすい黄色・液体	
臭気		99.2	官能法	無臭	
融点		99.2	92/69/EEC, A.1	-72.6 °C	
沸点		99.2	OECD103	測定不能 (195 °C以上で分解)	
密度		99.2	OECD109	1.079 g/cm ³ (20 °C)	
蒸気圧		99.2	OECD104	6.5 × 10 ⁻⁴ Pa (25 °C)	
熱安定性		96.0	OECD113	150 °Cまで安定	
溶解度	水		99.2	OECD105	74 mg/L (25 °C)
	有機溶媒	ヘキサン	96.0	5~95 (v/v)%溶液を調製し、 混和を目視で 確認する	任意の割合で混和 (25 °C)
		トルエン			
		ジクロロメタン			
		アセトン			
		メタノール			
		オクタノール			
		酢酸エチル			
解離定数 (pK _a)		99.2	OECD112	pH 2~12で解離しない	
1-オクタノール／水分配係数 (log P _{ow})		99.2	OECD107	3.9 (25 °C)	
加水分解性		98.7	OECD111	安定 (50 °C、5 日間、pH 4、pH 7 及び pH 9)	
水中光分解性		>97	EPA 161-2	安定 (pH 7、25 °C、15日間、36.79 W/m ² 、290~400 nm)	

試験項目	純度 (%)	試験方法	試験結果
紫外吸収 (UV) スペクトル	99.2	極大吸収波長 (nm)	吸光度
			モル吸光係数 (L mol ⁻¹ cm ⁻¹)
		中性	
		220	0.5739
		230	0.2182
		酸性 (メタノール/1 mol/L HCl水溶液 (90/10(v/v)))	
		220	0.5651
		230	0.2145
		アルカリ性 (メタノール/1 mol/L NaOH水溶液 (90/10(v/v)))	
		220	0.5450
		230	0.2153
試験項目		試験方法	試験結果
土壌吸着係数		OECD106	K ^{ads} _{Foc} : 398~3362 (4種類の国内土壌)
土壌残留性	記載なし	粒剤(2回散布)、水田土壌 : 沖積埴壌土 : 半減期 6.1日 (土壌の深さ10 cm、減衰曲線による推定値) 洪積砂壌土 : 半減期 13.4日 (土壌の深さ10 cm、減衰曲線による推定値)	
		粒剤+乳剤(各1回散布)、水田土壌(2種類) : 洪積砂壌土に沖積埴壌土1 m客土の造成地 : 半減期 2.2日 (土壌の深さ記載なし、減衰曲線による推定値) 沖積埴壌土 : 半減期20.0日 (土壌の深さ記載なし、減衰曲線による推定値)	

3. 申請に係る情報

2022年現在、バングラデシュ、中国、コロンビア、コスタリカ、エクアドル、エジプト、インド、カザフスタン、韓国、マレーシア、ナイジェリア、ペルー、フィリピン、タンザニア、タイ、トルコ、ウズベキスタン及びベトナム等で登録されている。

4. 作用機作

プレチラクロールは非ホルモン型吸収移行性の除草剤であり、植物の脂質生合成系の中でC₂₀以上の超長鎖脂肪酸生合成系酵素を阻害し、雑草に対して主に幼芽部の伸長を抑制し増殖を抑え枯死させることにより除草活性を有する。(HRAC 分類 : 15※)

※参照 : <https://www.hracglobal.com/>

5. 適用病害虫の範囲及び使用方法 (41 製剤、別添参照)

- ・石原ワンオール粒剤
(ピラゾキシフェン 6.0 %・プレチラクロール 1.5 %粒剤)
- ・クサホープD粒剤
(ジメタメトリン 0.20 %・ピラゾレート 6.0 %・プレチラクロール 1.5 %粒剤)
- ・バレージ粒剤、協友バレージ粒剤及びS Tバレージ粒剤
(ジメタメトリン 0.10 %・プレチラクロール 2.0 %粒剤)
- ・エリジャン乳剤
(プレチラクロール 12.0 %乳剤)
- ・スパークスター粒剤
(エスプロカルブ 5.0 %・ジメタメトリン 0.20 %・ピラゾスルフロンエチ 0.070 %・プレチラクロール 1.5 %粒剤)
- ・シング乳剤及びホクサンシング乳剤
(ピリブチカルブ 12.0 %・プレチラクロール 8.0 %乳剤)
- ・ソルネット 1 キロ粒剤
(プレチラクロール 4.0 %粒剤)
- ・ウリホス粒剤 1 5
(ジメタメトリン 0.20 %・ピラゾレート 8.0 %・プレチラクロール 1.5 %・ベンフレセート 1.5 %粒剤)
- ・ウリホス粒剤 1 5
(ジメタメトリン 0.20 %・ピラゾレート 8.0 %・プレチラクロール 1.5 %・ベンフレセート 1.5 %粒剤)
- ・ウリホス粒剤 1 0
(ジメタメトリン 0.20 %・ピラゾレート 4.0 %・プレチラクロール 1.5 %・ベンフレセート 1.0 %粒剤)
- ・ホクコユニハーブフロアブル
(プレチラクロール 5.0 %・ベンゾフェナップ 20.0 %水和剤)
- ・石原ワンオールS 1 キロ粒剤
(シメトリン 1.5 %・ピラゾキシフェン 18.0 %・プレチラクロール 4.5 %粒剤)
- ・パデホープ 1 キロ粒剤及びS D Sパデホープ 1 キロ粒剤
(ダイムロン 15.0 %・プレチラクロール 3.0 %粒剤)
- ・ホクト粒剤
(シハロホップブチル 0.60 %・ジメタメトリン 0.20 %・ピラゾスルフロンエチル 0.070 %・プレチラクロール 1.5 %粒剤)
- ・シンジェンタ・ホクト粒剤
(シハロホップブチル 0.60 %・ジメタメトリン 0.20 %・ピラゾスルフロンエチル 0.070 %・プレチラクロール 1.5 %粒剤)

- ・ ウリホス 1 キロ粒剤
(ジメタメトリン 0.60 %・ピラゾレート 18.0 %・プレチラクロール 3.0 %・ベンフレセート 3.0 %粒剤)
- ・ ウリホスフロアブル
(ジメタメトリン 0.60 %・ピラゾレート 18.0 %・プレチラクロール 3.0 %・ベンフレセート 3.0 %水和剤)
- ・ ウリホスジャンボ
(ジメタメトリン 1.0 %・ピラゾレート 30.0 %・プレチラクロール 5.0 %・ベンフレセート 5.0 %粒剤)
- ・ エリジャンジャンボ
(プレチラクロール 15.0 %粒剤)
- ・ クサトッタ 1 キロ粒剤及びM I Cスラッシャ 1 キロ粒剤
(ジメタメトリン 0.60 %・ピラゾレート 12.0 %・プレチラクロール 4.5 %・ブロモブチド 6.0 %粒剤)
- ・ クサトッタ粒剤及びM I Cスラッシャ粒剤
(ジメタメトリン 0.20 %・ピラゾレート 4.0 %・プレチラクロール 1.5 %・ブロモブチド 2.0 %粒剤)
- ・ 協友農将軍フロアブル
(ジメタメトリン 0.5 %・ピリブチカルブ 10.0 %・プレチラクロール 5.0 %水和剤)
- ・ エリジャンE W乳剤
(プレチラクロール 38.5 %乳剤)
- ・ クサナイト粒剤
(ピラゾキシフェン 6.0 %・プレチラクロール 1.5 %粒剤)
- ・ マキシーMX 1 キロ粒剤
(プレチラクロール 4.2 %・メソトリオン 0.60 %粒剤)
- ・ 葉がくれ 1 キロ粒剤
(シクロスルファムロン 0.50 %・プレチラクロール 6.0 %粒剤)
- ・ かねつぐ 1 キロ粒剤
(シクロスルファムロン 0.40 %・プレチラクロール 4.0 %粒剤)
- ・ ロータスMX 1 キロ粒剤及びアピログロウMX 1 キロ粒剤
(ピラゾスルフロンエチル 0.30 %・ピリフタリド 1.5 %・プレチラクロール 4.5 %・メソトリオン 0.90 %粒剤)
- ・ ロータスMXジャンボ及びアピログロウMXジャンボ
(ピラゾスルフロンエチル 0.75 %・ピリフタリド 3.75 %・プレチラクロール 11.25 %・メソトリオン 2.25 %粒剤)
- ・ かねつぐーラジカルジャンボ
(シクロスルファムロン 1.67 %・プレチラクロール 20.0 %粒剤)

- ・OATシェリフ 1 キロ粒剤
(イマゾスルフロン 0.90 %・シハロホップブチル 1.8 %・ジメタメトリン 0.60 %・プレチラクロール 4.5 %粒剤)
- ・アピログロウMXエアー粒剤
(ピラゾスルフロンエチル 0.75 %・ピリフタリド 3.75 %・プレチラクロール 11.25 %・メソトリオン 2.25 %粒剤)
- ・メガオスMX 1 キロ粒剤
(ピリフタリド 1.2 %・プレチラクロール 4.6 %・ベンスルフロンメチル 0.51 %・メソトリオン 0.90 %粒剤)

II. ミツバチに対する安全性に係る試験の概要

1. ミツバチに対する安全性に係る試験

プレチラクロールのミツバチに対する安全性に係る試験を表1に示す。

表1：ミツバチに対する安全性に係る試験

試験の種類	評価段階	試験数	公表文献数*
成虫単回接触毒性試験	第1段階	1	0
成虫単回経口毒性試験		1	0
成虫反復経口毒性試験		0	0
幼虫経口毒性試験		0	0
花粉・花蜜残留試験		0	
蜂群への影響試験	第2段階	0	

* (参考) 公表文献の検索結果

(生活環境動植物及び家畜に対する毒性に関する分野)

データベース名: ①STN(ANABSTR、BIOSIS等18のデータベース)及びPROQUEST DIALOG (AGRICOLA、AGRIS等21のデータベース)(資料2)
 ②Web of Science (Core Collection)(資料3、4)
 ③J-STAGE(資料3)
 検索対象期間: ①2007年1月から2018年1月
 ②2018年1月11日から2022年4月30日
 ③2007年4月1日から2022年4月30日

「生活環境動植物及び家畜に対する毒性に関する分野」に該当する文献数	①	②	③
	635*	16	49



【表題と概要に基づく適合性の有無の評価】

明らかに評価の目的と適合しない文献の除外

*すべての分野を含む文献数

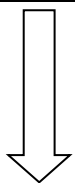
「適合性なし」以外の文献数	①	②	③
	13	9	3



【全文に基づく適合性の有無の評価】

評価の目的と適合しない文献の除外

「適合性あり」の文献数	①	②	③
	13	3	0



【適合性の分類】

分類基準を設定して全文をレビューし、評価目的への適合性を

a、b、c の3つの区分に分類

区分a：リスク評価パラメーターを設定又は見直すために利用可能と判断される文献

区分b：リスク評価パラメーターを設定する際の補足データとして利用が可能と想定される文献

区分c：a又はbに分類されない文献

「区分a～c」に分類された文献数	①	②	③
	3	3	0



試験生物として「セイヨウミツバチ (*Apis mellifera*) 」を用いている

審議の対象とする文献数	①	②	③
	0	0	0

※公表文献に関する情報募集（令和5年11月17日～12月16日）で寄せられた情報はない。

2. ミツバチ個体への毒性（毒性指標）

2.1 成虫単回接触毒性試験

セイヨウミツバチ成虫を用いた単回接触毒性試験が実施され、48 h LD₅₀ は >200 µg ai/bee であった。

表 2：単回接触毒性試験結果（資料 1、1997 年）

被験物質	原体		
供試生物/反復	セイヨウミツバチ(<i>Apis mellifera</i>)/ 3反復、10頭/区		
準拠ガイドライン	EPPO 170		
試験期間	72 h		
投与溶媒(投与液量)	アセトン(1 µL)		
暴露量 (設定値に基づく有効成分換算値) (µg ai /bee)	対照区 (無処理) (死亡率 %)	対照区 (アセトン) (死亡率 %)	200
死亡数/供試生物数 (48 h)	0/30 (0 %)	0/30 (0 %)	1/30
観察された行動異常	なし		
LD ₅₀ (µg ai /bee) (48 h)	>200		

2.2 成虫単回経口毒性試験

セイヨウミツバチ成虫を用いた単回経口毒性試験が実施され、48 h LD₅₀ は >100 µg ai/bee であった。

表 3：単回経口毒性試験結果（資料 1、1997 年）

被験物質	原体						
供試生物/反復	セイヨウミツバチ(<i>Apis mellifera</i>)/ 3反復、10頭/区						
準拠ガイドライン	EPPO 170						
試験期間	72 h						
投与溶液(投与液量)	20 %蜂蜜水溶液						
助剤(濃度%)	なし						
暴露量 (摂餌量に基づく有効成分換算値) (µg ai/bee)	対照区 (無処理) (死亡率 %)	3.13	6.08	11.9	23.3	35.8	100
死亡数/供試生物数 (48 h)	0/30 (0 %)	1/30	2/30	1/30	3/30	1/30	1/30
観察された行動異常	無気力又は運動障害						
LD ₅₀ (µg ai/bee) (48 h)	>100						

2.3 成虫反復経口毒性試験

該当なし

2.4 幼虫経口毒性試験

該当なし

3. 花粉・花蜜残留試験

該当なし

4. 蜂群への影響試験

該当なし

III. 毒性指標

1. 毒性試験の結果概要

毒性試験の結果概要を表 4 に示す。

表 4：各試験の毒性値一覧

毒性試験	毒性値	
	エンドポイント	試験1
成虫 単回接触毒性	48 h LD ₅₀ (µg ai/bee)	>200
成虫 単回経口毒性		>100

2. 毒性指標値

プレチラクロールの蜜蜂への影響評価の用いる毒性指標値は以下のとおりとした（表 5）。

(1) 成虫単回接触毒性

48h LD₅₀ 値 (>200 µg ai/bee) を採用し、毒性指標値を 200 µg ai/bee とした。

(2) 成虫単回経口毒性

48h LD₅₀ 値 (>100 µg ai/bee) を採用し、毒性指標値を 100 µg ai/bee とした。

表 5：プレチラクロールのミツバチへの影響評価に用いる毒性指標値

生育段階	毒性試験の種類	毒性指標値(単位)	
成虫	単回接触毒性	48h LD ₅₀ (µg ai/bee)	200
	単回経口毒性	48h LD ₅₀ (µg ai/bee)	100

3. 毒性の強さから付される注意事項

成虫単回接触毒性及び成虫単回経口毒性共に LD₅₀ は 11 µg/bee 以上であったため、注意事項は要しない。

IV. 暴露量の推計

本剤は、昆虫成長制御剤に該当せず、成虫の急性接触毒性（単回接触毒性試験の LD₅₀ 値）が 11 µg/bee 以上であること、及び成虫の急性接触毒性以外の毒性値が超値（成虫単回経口毒性 LD₅₀ : >100 µg/bee）であることから、1 巡目の再評価において、リスク評価を行う対象とはしない。そのため、暴露量の推計は行わない。

V. 評価結果

プレチラクロールは、申請された使用方法に基づき使用される限りにおいて、ミツバチの群の維持に支障を及ぼすおそれはないと考えられる。

評価資料

資料 番号	報告年	題名、出典（試験施設以外の場合） 試験施設、報告書番号 GLP 適合状況（必要な場合）、公表の有無
1	1997	CGA 26423:Laboratory Oral and Contact Test with the Honeybee, <i>Apis mellifera</i> , based on the EPPO Guideline 170 (1992) Springborn Laboratories (Europe) AG Health and Environmental Sciences Report no.: 97-165-1008 GLP、未公表
2	2022 (2023修正)	プレチラクロール 公表文献調査結果報告書 公表
3	2022 (2023修正)	農薬取締法に基づく農薬有効成分の再評価制度に係る公表文献調査報告書 有効成分名：プレチラクロール 公表
4	2023	公表文献調査報告書 プレチラクロール(追補) 公表

評価資料（公表文献）

該当なし

別添：適用病害虫の範囲及び使用方法（プレチラクロール）

目 次

1. 登録番号 15986：石原ワンオール粒剤 （ピラゾキシフェン 6.0 %・プレチラクロール 1.5 %粒剤）	4
2. 登録番号 16664：クサホープD粒剤 （ジメタメトリン 0.20 %・ピラゾレート 6.0 %・プレチラクロール 1.5 %粒剤）	4
3. 登録番号 16669：バレージ粒剤、 登録番号 21616：協友バレージ粒剤、 登録番号 21723：S Tバレージ粒剤 （ジメタメトリン 0.10 %・プレチラクロール 2.0 %粒剤）	5
4. 登録番号 18163：エリジャン乳剤（プレチラクロール 12.0 %乳剤）	5
5. 登録番号 18225：スパークスター粒剤 （エスプロカルブ 5.0 %・ジメタメトリン 0.20 %・ピラゾスルフロネエチ 0.070 %・プレチラ クロール 1.5 %粒剤）	6
6. 登録番号 18541：シング乳剤、 登録番号 22680：ホクサンシング乳剤 （ピリブチカルブ 12.0 %・プレチラクロール 8.0 %乳剤）	6
7. 登録番号 18567：ソルネット 1 キロ粒剤（プレチラクロール 4.0 %粒剤）	7
8. 登録番号 18677：ウリホス粒剤 1 5 （ジメタメトリン 0.20 %・ピラゾレート 8.0 %・プレチラクロール 1.5 %・ベンフレセート 1.5 %粒剤）	7
9. 登録番号 18678：ウリホス粒剤 1 5 （ジメタメトリン 0.20 %・ピラゾレート 8.0 %・プレチラクロール 1.5 %・ベンフレセート 1.5 %粒剤）	8
10. 登録番号 18680：ウリホス粒剤 1 0 （ジメタメトリン 0.20 %・ピラゾレート 4.0 %・プレチラクロール 1.5 %・ベンフレセート 1.0 %粒剤）	8
11. 登録番号 18717：ホクコーユニハーブフロアブル （プレチラクロール 5.0 %・ベンゾフェナップ 20.0 %水和剤）	9
12. 登録番号 18897：石原ワンオールS 1 キロ粒剤 （シメトリン 1.5 %・ピラゾキシフェン 18.0 %・プレチラクロール 4.5 %粒剤）	9
13. 登録番号 18913：パデホープ 1 キロ粒剤、 登録番号 18914：S D Sパデホープ 1 キロ粒剤 （ダイムロン 15.0 %・プレチラクロール 3.0 %粒剤）	10

1 4. 登録番号 19214 : ホクト粒剤 (シハロホップブチル 0.60 %・ジメタメトリン 0.20 %・ピラゾスルフロンエチル 0.070 %・ プレチラクロール 1.5 %粒剤)	10
1 5. 登録番号 20846 : シンジェンタ・ホクト粒剤 (シハロホップブチル 0.60 %・ジメタメトリン 0.20 %・ピラゾスルフロンエチル 0.070 %・ プレチラクロール 1.5 %粒剤)	11
1 6. 登録番号 19749 : ウリホス 1 キロ粒剤 (ジメタメトリン 0.60 %・ピラゾレート 18.0 %・プレチラクロール 3.0 %・ベンフレセート 3.0 %粒剤)	11
1 7. 登録番号 20292 : ウリホスフロアブル (ジメタメトリン 0.60 %・ピラゾレート 18.0 %・プレチラクロール 3.0 %・ベンフレセート 3.0 %水和剤)	12
1 8. 登録番号 20656 : ウリホスジャンボ (ジメタメトリン 1.0 %・ピラゾレート 30.0 %・プレチラクロール 5.0 %・ベンフレセート 5.0 %粒剤)	12
1 9. 登録番号 20963 : エリジャンジャンボ (プレチラクロール 15.0 %粒剤)	13
2 0. 登録番号 21299 : クサトッタ 1 キロ粒剤、 登録番号 22459 : M I C スラッシュ 1 キロ粒剤 (ジメタメトリン 0.60 %・ピラゾレート 12.0 %・プレチラクロール 4.5 %・ブロモブチド 6.0 %粒剤)	13
2 1. 登録番号 21300 : クサトッタ粒剤、 登録番号 22421 : M I C スラッシュ粒剤 (ジメタメトリン 0.20 %・ピラゾレート 4.0 %・プレチラクロール 1.5 %・ブロモブチド 2.0 %粒剤)	14
2 2. 登録番号 21587 : 協友農将軍フロアブル (ジメタメトリン 0.5 %・ピリブチカルブ 10.0 %・プレチラクロール 5.0 %水和剤)	14
2 3. 登録番号 22138 : エリジャン E W 乳剤 (プレチラクロール 38.5 %乳剤)	15
2 4. 登録番号 22142 : クサナイト粒剤 (ピラゾキシフェン 6.0 %・プレチラクロール 1.5 %粒剤)	15
2 5. 登録番号 22694 : マキシーMX 1 キロ粒剤 (プレチラクロール 4.2 %・メソトリオン 0.60 %粒剤)	15
2 6. 登録番号 23326 : 葉がくれ 1 キロ粒剤 (シクロスルファムロン 0.50 %・プレチラクロール 6.0 %粒剤)	16
2 7. 登録番号 23327 : かねつぐ 1 キロ粒剤 (シクロスルファムロン 0.40 %・プレチラクロール 4.0 %粒剤)	16
2 8. 登録番号 23439 : ロータスMX 1 キロ粒剤、 登録番号 23452 : アピログロウMX 1 キロ粒剤	

(ピラゾスルフロンエチル 0.30 %・ピリフタリド 1.5 %・プレチラクロール 4.5 %・メソトリオン 0.90 %粒剤)	17
2 9. 登録番号 23440 : ロータスMXジャンボ、 登録番号 23453 : アピログロウMXジャンボ (ピラゾスルフロンエチル 0.75 %・ピリフタリド 3.75 %・プレチラクロール 11.25 %・メソトリオン 2.25 %粒剤)	18
3 0. 登録番号 23588 : かねつぐーラジカルジャンボ (シクロスルファムロン 1.67 %・プレチラクロール 20.0 %粒剤)	19
3 1. 登録番号 23613 : OATシェリフ 1 キロ粒剤 (イマゾスルフロン 0.90 %・シハロホップブチル 1.8 %・ジメタメトリン 0.60 %・プレチラクロール 4.5 %粒剤)	20
3 2. 登録番号 24361 : アピログロウMXエアー粒剤 (ピラゾスルフロンエチル 0.75 %・ピリフタリド 3.75 %・プレチラクロール 11.25 %・メソトリオン 2.25 %粒剤)	21
3 3. 登録番号 24651 : メガオスMX 1 キロ粒剤 (ピリフタリド 1.2 %・プレチラクロール 4.6 %・ベンスルフロンメチル 0.51 %・メソトリオン 0.90 %粒剤)	22

1. 登録番号 15986：石原ワンオール粒剤

(ピラゾキシフェン 6.0 %・プレチラクロール 1.5 %粒剤)

作物名	適用 雑草名	使用 時期	適用 土壌	使用量	本剤の 使用 回数	使用 方法	適用 地帯
移植水稻	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ヘラオモダカ ミスガヤツリ ヒルムシロ	移植直後 ～ ハビエ2葉期 但し、移植後 30日まで	砂壤土 ～ 埴土	3～4 kg	1回	湛水散布	全域(北海道を除く)の普通期及び早期栽培地帯
いぐさ	水田一年生雑草	植付後～スズメノ テッポウ3葉期 または ハビエ1.5葉期 まで	壤土 ～ 埴土	3 kg	2回以内	湛水土壌 処理	全域

ピラゾキシフェンを含む 農薬の総使用回数	プレチラクロールを含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内

2. 登録番号 16664：クサホープD粒剤

(ジメタメトリン 0.20 %・ピラゾレート 6.0 %・プレチラクロール 1.5 %粒剤)

作物名	適用 雑草名	使用 時期	使用量	本剤の 使用 回数	使用 方法
移植水稻	一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ヘラオモダカ ミスガヤツリ ヒルムシロ アオイトロ・藻類によ る表層はく離 オモダカ ウキクサ	移植後3日 ～ ハビエ2葉期 ただし、移植後30 日まで	3 kg/10 a	1回	湛水散布

ジメタメトリンを含む 農薬の総使用回数	ピラゾレートを含む 農薬の総使用回数	プレチラクロールを含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内

3. 登録番号 16669 : バレージ粒剤、
登録番号 21616 : 協友バレージ粒剤、
登録番号 21723 : S Tバレージ粒剤

(ジメタメトリン 0.10 %・プレチラクロール 2.0 %粒剤)

作物名	適用 雑草名	使用 時期	使用量	本剤の 使用 回数	使用 方法	ジメタメトリンを 含む農薬の 総使用回数	プレチラクロールを 含む農薬の 総使用回数
移植水稻	一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ ミスガヤツリ アオミドロ・藻類に よる表層はく離	移植後 3 日 ～ 10 日(ノビエ の 1.5 葉期 まで)	3 kg/10 a	1 回	湛水 散布	2 回以内	2 回以内

4. 登録番号 18163 : エリジャン乳剤 (プレチラクロール 12.0 %乳剤)

作物名	適用 雑草名	使用 時期	使用量	本剤の 使用 回数	使用 方法	プレチラクロールを 含む農薬の総 使用回数
移植水稻	一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ	植代後 ～ 移植 7 日前まで	300 mL/10 a	1 回	原液 湛水 散布	2 回以内
		移植直後～ノビエ 1 葉期 ただし、移植後 30 日 まで				

5. 登録番号 18225 : スパークスター粒剤

(エスプロカルブ 5.0 %・ジメタメトリン 0.20 %・ピラゾスルフロンエチ 0.070 %・プレチラクロール 1.5 %粒剤)

作物名	適用 雑草名	使用 時期	使用 土壌	使用量	本剤の 使用 回数	使用 方法	適用 地帯
移植水稻	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカワ ミスガヤツリ(北海道を除く) ヘラオモダカ クログワイ(北海道を除く) オモダカ(北海道を除く) ヒルムシロ シズイ(東北) セリ(九州を除く) エゾノササグサ(北海道) アオミドロ・藻類による表層 はく離	移植後 5 日 ～ ルビエ 2.5 葉期 ただし、移植後 30 日まで	砂壤土 ～ 埴土	3 kg/10 a	1 回	湛水 散布	全域の 普通期 及び 早期栽 培地帯

エスプロカルブを含む 農薬の総使用回数	ジメタメトリンを含む 農薬の総使用回数	ピラゾスルフロンエチを含む 農薬の総使用回数	プレチラクロールを含む 農薬の総使用回数
1 回	2 回以内	1 回	2 回以内

6. 登録番号 18541 : シング乳剤、

登録番号 22680 : ホクサンシング乳剤

(ピリブチカルブ 12.0 %・プレチラクロール 8.0 %乳剤)

作物名	適用 雑草名	使用 時期	使用量	本剤の 使用 回数	使用 方法
移植水稻	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ミスガヤツリ ヘラオモダカ	植代後~移植 7 日前まで	500 mL/10 a	1 回	原液湛水散布
		植代時 (移植 7 日前まで)			植代時に原液 のまま散布し 混和する
	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ミスガヤツリ	植代後~移植 7 日前まで	300 mL/10 a (少量散布)		原液湛水散布
		移植直後~ ¹ 葉期 ただし、移植後 30 日まで			

ピリブチカルブを含む 農薬の総使用回数	プレチラクロールを含む 農薬の総使用回数
2 回以内	2 回以内

7. 登録番号 18567：ソルネット 1 キロ粒剤（プレチラクロール 4.0 %粒剤）

作物名	適用 雑草名	使用 時期	使用量	本剤の 使用 回数	使用 方法	プレチラクロールを含む 農薬の総使用回数
移植水稻	一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ ミスガヤツリ	植代後～移植前 7 日	1 kg/10 a	1 回	湛水散布	2 回以内
		移植直後～ ¹ ビエ 1 葉期 ただし、移植後 30 日 まで				
		移植時			田植同時散 布機で施用	

8. 登録番号 18677：ウリホス粒剤 1 5

（ジメタメトリン 0.20 %・ピラゾレート 8.0 %・プレチラクロール 1.5 %・ベンフ
レート 1.5 %粒剤）

作物名	適用 雑草名	使用 時期	適用 土壌	使用量	本剤の 使用 回数	使用 方法	適用 地帯
移植水稻	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ヘラオモダカ ヒルムシロ エゾノサヤヌカゲサ アオミドロ・藻類による表層 はく離	移植後 5 日～ ¹ ビエ 2 葉期 ただし、 移植後 30 日 まで	壤土～埴土	3 kg/10 a	1 回	湛水 散布	北海道

ジメタメトリンを含む 農薬の総使用回数	ピラゾレートを含む 農薬の総使用回数	プレチラクロールを含む 農薬の総使用回数	ベンフレートを含む 農薬の総使用回数
2 回以内	2 回以内	2 回以内	2 回以内

9. 登録番号 18678 : ウリホス粒剤 15

(ジメタメトリン 0.20 %・ピラゾレート 8.0 %・プレチラクロール 1.5 %・ベンフ
レート 1.5 %粒剤)

作物名	適用 雑草名	使用 時期	適用 土壌	使用量	本剤の 使用 回数	使用 方法	適用 地帯
移植水稻	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ヘラオモダカ ヒルムシロ エゾノササカグサ アオミドロ・藻類によ る表層はく離	移植5日～ 2葉期 ただし、移植後30日 まで	壤土 ～ 埴土	3 kg/10 a	1回	湛水 散布	北海道

ジメタメトリンを含む 農薬の総使用回数	ピラゾレートを 含む 農薬の総使用回数	プレチラクロールを含む 農薬の総使用回数	ベンフ レートを 含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内	2回以内

10. 登録番号 18680 : ウリホス粒剤 10

(ジメタメトリン 0.20 %・ピラゾレート 4.0 %・プレチラクロール 1.5 %・ベンフ
レート 1.0 %粒剤)

作物名	適用 雑草名	使用 時期	使用量	本剤の 使用 回数	使用 方法
移植水稻	一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ ヘラオモダカ ヒルムシロ セリ アオミドロ・藻類による表 層はく離	移植後3日～ 2.5葉期 ただし、移植後30日 まで	3 kg/10 a	1回	湛水散布

ジメタメトリンを含む 農薬の総使用回数	ピラゾレートを 含む 農薬の総使用回数	プレチラクロールを含む 農薬の総使用回数	ベンフ レートを 含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内	2回以内

1 1. 登録番号 18717 : ホクコーユニハーブフロアブル

(プレチラクロール 5.0 %・ベンゾフェナップ 20.0 %水和剤)

作物名	適用 雑草名	使用 時期	使用量	本剤の 使用 回数	使用 方法
移植水稻	一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカ ミスガヤツリ ヘラオモダカ オモダカ	植代時(移植 7 日前まで)	500 mL/10 a	1 回	植代時に原液のまま散布し 混和する
		植代後~移植 7 日前まで			原液湛水散布
		移植直後~ ^ノ ビ ^エ 1 葉期 但し、移植後 30 日まで			原液湛水散布、水口施用 又は無人航空機による滴下
		移植時			田植同時散布機で施用

プレチラクロールを含む 農薬の総使用回数	ベンゾフェナップを含む 農薬の総使用回数
2 回以内	2 回以内

1 2. 登録番号 18897 : 石原ワンオール S 1 キロ粒剤

(シメトリン 1.5 %・ピラゾキシフェン 18.0 %・プレチラクロール 4.5 %粒剤)

作物名	適用 雑草名	使用 時期	適用 土壌	使用量	本剤の 使用 回数	使用 方法	適用 地帯
移植水稻	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカ ミスガヤツリ ヘラオモダカ(東北) オモダカ(北陸、関 東・東山・東海、 九州) ヒルムシロ(東北、近 畿・中国・四国) アオミドロ・藻類によ る表層はく離	移植時	砂壤土 ~ 埴土	1 kg/10 a	1 回	田植同時 散布機で 施用	全域(北 海道を除 く)の普 通期及び 早期栽培 地帯
		移植直後~ ^ノ ビ ^エ 2 葉期 但し、移植後 30 日まで				湛水散布	
いぐさ	水田一年生雑草	植付後~ 4 月中旬 (雑草発生前~ ^ス ズ ^メ ノ ^テ ッ ^ポ ウ 3 葉期まで、 ^ノ ビ ^エ 1.5 葉期 まで)	埴壤土 ~ 埴土				九州

シメトリンを含む 農薬の総使用回数	ピラゾキシフェンを含む 農薬の総使用回数	プレチラクロールを含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内

1 3. 登録番号 18913 : パデホープ 1 キロ粒剤、
登録番号 18914 : S D S パデホープ 1 キロ粒剤
(ダイムロン 15.0 %・プレチラクロール 3.0 %粒剤)

作物名	適用 雑草名	使用 時期	使用量	本剤の 使用 回数	使用 方法
移植水稻	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ミスガヤツリ ヘラオモダカ(北海道、東北、北陸)	植代後~移植前 7 日 又は 移植直後~ ¹ 葉期 但し、移植後 30 日まで	1 kg/10 a	1 回	湛水散布

ダイムロンを含む 農薬の総使用回数	プレチラクロールを含む 農薬の総使用回数
3 回以内 (育苗箱散布は 1 回以内、本田では 2 回以内)	2 回以内

1 4. 登録番号 19214 : ホクト粒剤
(シハロホップブチル 0.60 %・ジメタメトリン 0.20 %・ピラゾスルフロンエチル
0.070 %・プレチラクロール 1.5 %粒剤)

作物名	適用 雑草名	使用 時期	適用 土壌	使用量	本剤の 使用 回数	使用 方法	適用 地帯
移植水稻	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカワ ミスガヤツリ ヘラオモダカ(北海道、東北) オモダカ(東北) ヒルムシロ セリ クログワイ(北海道を除く) アオミドロ・藻類による表層 はく離	移植後 5 日 ~ ¹ 葉期 ただし、 移植後 30 日 まで	壤土~埴土	3 kg/10 a	1 回	湛水 散布	全域の普通期 及び早期栽培 地帯

シハロホップブチルを含む 農薬の総使用回数	ジメタメトリンを含む 農薬の総使用回数	ピラゾスルフロンエチルを含む 農薬の総使用回数	プレチラクロールを含む 農薬の総使用回数
3回以内	2回以内	1回	2回以内

15. 登録番号 20846：シンジェンタ・ホクト粒剤

(シハロホップブチル 0.60 %・ジメタメトリン 0.20 %・ピラゾスルフロンエチル 0.070 %・プレチラクロール 1.5 %粒剤)

作物名	適用 雑草名	使用 時期	使用量	本剤の 使用 回数	使用 方法
移植水稻	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカワ ミスガヤツリ ヘラオモダカ オモダカ ヒルムシロ セリ クロクワイ アオミドロ・藻類による表層 はく離	移植後 5 日 ～ ルビエ 3 葉期 ただし、 移植後 30 日まで	3 kg/10 a	1 回	湛水 散布

シハロホップブチルを含む 農薬の総使用回数	ジメタメトリンを含む 農薬の総使用回数	ピラゾスルフロンエチルを含む 農薬の総使用回数	プレチラクロールを含む 農薬の総使用回数
3回以内	2回以内	1回	2回以内

16. 登録番号 19749：ウリホス 1 キロ粒剤

(ジメタメトリン 0.60 %・ピラゾレート 18.0 %・プレチラクロール 3.0 %・ベンフルレート 3.0 %粒剤)

作物名	適用 雑草名	使用 時期	適用 土壌	使用量	本剤の 使用 回数	使用 方法	適用 地帯
移植水稻	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ヘラオモダカ ヒルムシロ エゾノサヤヌカゲサ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植直後 ～ ルビエ 2 葉期 ただし、移植 後 30 日まで	埴土 ～ 壤土	1 kg/10 a	1 回	湛水散布 又は 無人航空機 による散布	北海道

ジメタメトリンを含む 農薬の総使用回数	ピラゾレートを含む 農薬の総使用回数	プレチラクロールを含む 農薬の総使用回数	ベンフルレートを含む 農薬の総使用回数
2 回以内	2 回以内	2 回以内	2 回以内

17. 登録番号 20292：ウリホスフロアブル

(ジメタメトリン 0.60 %・ピラゾレート 18.0 %・プレチラクロール 3.0 %・ベンフレセート 3.0 %水和剤)

作物名	適用 雑草名	使用 時期	適用 土壌	使用量	本剤の 使用 回数	使用 方法	適用 地帯
移植水稻	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカ エゾノササカゲサ アオミドロ・藻類に よる表層はく離	移植直後～ ビエ2葉期 ただし、 移植後 30 日 まで	壤土 ～ 埴土	1 L/10 a	1 回	原液湛水 散布 又は 水口施用	北海道

ジメタメトリンを含む 農薬の総使用回数	ピラゾレートを 含む 農薬の総使用回数	プレチラクロールを含む 農薬の総使用回数	ベンフレセートを 含む 農薬の総使用回数
2 回以内	2 回以内	2 回以内	2 回以内

18. 登録番号 20656：ウリホスジャンボ

(ジメタメトリン 1.0 %・ピラゾレート 30.0 %・プレチラクロール 5.0 %・ベンフレセート 5.0 %粒剤)

作物名	適用 雑草名	使用 時期	適用 土壌	使用量	本剤の 使用 回数	使用 方法	適用 地帯
移植水稻	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカ ヘラオモダカ ヒルムシロ エゾノササカゲサ アオミドロ・藻類による表層 はく離	移植 3 日 ～15 日 (ビエ2葉期 まで)	埴土～壤土 (減水深 1.5cm/日 以下)	小包装 (パック)10 個(600g) /10 a	1 回	水田に小包装 (パック) のまま 投げ入れる	北海道

ジメタメトリンを含む 農薬の総使用回数	ピラゾレートを 含む 農薬の総使用回数	プレチラクロールを含む 農薬の総使用回数	ベンフレセートを 含む 農薬の総使用回数
2 回以内	2 回以内	2 回以内	2 回以内

19. 登録番号 20963 : エリジャンジャンボ
(プレチラクロール 15.0 %粒剤)

作物名	適用 雑草名	使用 時期	使用量	本剤の 使用 回数	使用 方法	プレチラクロールを 含む農薬の 総使用回数
移植水稻	一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ミスガヤツリ ヘラオモダカ	植代後~移植前 7 日又は移植直後~ ノビエ 1 葉期 ただし、移植後 30 日まで	小包装(パック) 10 個(300 g)/10 a	1 回	水田に小包装(パック) のまま投げ 入れる。	2 回以内

20. 登録番号 21299 : クサトッタ 1 キロ粒剤、
登録番号 22459 : MIC スラッシャ 1 キロ粒剤
(ジメタメトリン 0.60 %・ピラゾレート 12.0 %・プレチラクロール 4.5 %・プロモ
ブチド 6.0 %粒剤)

作物名	適用 雑草名	使用 時期	使用量	本剤の 使用 回数	使用 方法
移植水稻	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ミスガヤツリ ヘラオモダカ ヒルムシロ セリ アオミドロ・藻類による表層 はく離	移植時	1 kg/10 a	1 回	田植同時散布 機で施用
		移植直後~ノビエ 2 葉期 ただし、移植後 30 日まで			湛水散布
直播水稻	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ミスガヤツリ ヒルムシロ	稲 1.5 葉期~ノビエ 2 葉期 ただし、収穫 90 日前まで			

ジメタメトリンを含む 農薬の総使用回数	ピラゾレートを含む 農薬の総使用回数	プレチラクロールを含む 農薬の総使用回数	プロモブチドを含む 農薬の総使用回数
2 回以内	2 回以内	2 回以内	2 回以内

2 1. 登録番号 21300 : クサトツタ粒剤、

登録番号 22421 : M I C スラッシャ粒剤

(ジメタメトリン 0.20 % ・ ピラゾレート 4.0 % ・ プレチラクロール 1.5 % ・ ブロモ
ブチド 2.0 % 粒剤)

作物名	適用 雑草名	使用 時期	使用量	本剤の 使用 回数	使用 方法
移植水稻	一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ミスガヤツリ ヘラオモダカ ヒルムシロ アオミドロ・藻類による表 層はく離	移植時	3 kg/10 a	1 回	田植同時散 布機で施用
		移植直後～ヒエ 2.5 葉期 ただし、移植後 30 日まで			湛水散布

ジメタメトリンを含む 農薬の総使用回数	ピラゾレートを 含む 農薬の総使用回数	プレチラクロールを含む 農薬の総使用回数	ブロモブチドを含む 農薬の総使用回数
2 回以内	2 回以内	2 回以内	2 回以内

2 2. 登録番号 21587 : 協友農将軍フロアブル

(ジメタメトリン 0.5 % ・ ピリブチカルブ 10.0 % ・ プレチラクロール 5.0 % 水和
剤)

作物名	適用 雑草名	使用 時期	使用量	本剤の 使用 回数	使用 方法	
移植水稻	水田一年生雑草 マツバイ ホタルイ ヘラモダカ アオドロ・藻類によ る表層はく離	移植時	500 mL/10 a	1 回	田植同時 散布機で施用	
		植代後～移植 7 日前又は 移植直後～ ^{ノビエ} 1.5 葉期 但し、移植後 30 日まで			原液湛水散布	
		植代後～移植 7 日前又は 移植直後～ ^{ノビエ} 1 葉期 但し、移植後 30 日まで	300 mL/10 a (少量散布)			水口施用
		移植直後～ ^{ノビエ} 1 葉期 但し、移植後 30 日まで				田植同時 散布機で施用
		移植時				

ジメタメトリンを含む 農薬の総使用回数	ピリブチカルブを含む 農薬の総使用回数	プレチラクロールを含む 農薬の総使用回数
2 回以内	2 回以内	2 回以内

23. 登録番号 22138 : エリジャンEW乳剤 (プレチラクロール 38.5 %乳剤)

作物名	適用 雑草名	使用 時期	使用量		本剤の 使用 回数	使用 方法	プレチラクロール を含む農薬の総使 用回数
			薬量	希釈 水量			
移植水稻	一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ ミスガヤツリ	移植直後 ～ ノビエ1葉期 ただし、移植 後30日まで	100 mL/10 a	100 mL/10 a (原液)～ 500 mL/10 a	1回	湛水散布、 水口施用又は 無人航空機に よる滴下	2回以内
		移植時		500 mL/10 a		田植同時散布 機で施用	

24. 登録番号 22142 : クサナイト粒剤

(ピラゾキシフェン 6.0 %・プレチラクロール 1.5 %粒剤)

作物名	適用 雑草名	使用 時期	適用 土壌	使用量	本剤の 使用回 数	使用 方法	適用 地帯
移植水稻	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ヘラオモダカ ミスガヤツリ ヒルムシロ	移植直後 ～ ノビエ2葉期 但し、移植後 30日まで	砂壤土 ～ 埴土	3～4 kg	1回	湛水散布	全域(北海道 を除く)の普 通期及び早 期栽培地帯

ピラゾキシフェンを含む 農薬の総使用回数	プレチラクロールを含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内

25. 登録番号 22694 : マキシ- MX 1 キロ粒剤

(プレチラクロール 4.2 %・メソトリオン 0.60 %粒剤)

作物名	適用 雑草名	使用 時期	使用量	本剤の 使用 回数	使用 方法	プレチラクロールを 含む農薬の 総使用回数	メソトリオンを 含む農薬の 総使用回数
移植水稻	一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ミスガヤツリ ヘラオモダカ ヒルムシロ	移植直後 ～ ノビエ1.5葉期 ただし、 移植後30日まで	1 kg/10 a	1回	湛水散布	2回以内	2回以内
		移植時			田植同時散 布機で施用		

26. 登録番号 23326：葉がくれ1キロ粒剤

(シクロスルフアムロン 0.50 %・プレチラクロール 6.0 %粒剤)

作物名	適用 雑草名	使用 時期	使用量	本剤の 使用 回数	使用 方法
移植水稻	水田一年生雑草及び マツハイ ホタルイ ウリカワ ミスガヤツリ ヘラオモダカ ヒルムシロ セリ オモダカ クログワイ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植直後 ～ ノビエ2葉期 但し、移植後30日まで	1 kg/10 a	1回	湛水散布

シクロスルフアムロンを含む 農薬の総使用回数	プレチラクロールを含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内

27. 登録番号 23327：かねつぐ1キロ粒剤

(シクロスルフアムロン 0.40 %・プレチラクロール 4.0 %粒剤)

作物名	適用 雑草名	使用 時期	使用量	本剤の 使用 回数	使用 方法
移植水稻	水田一年生雑草 及び マツハイ ホタルイ ウリカワ ミスガヤツリ ヘラオモダカ ヒルムシロ クログワイ オモダカ アオミドロ・藻類による 表層はく離	移植時	1 kg/10 a	1回	田植同時 散布機で施用
		移植直後～ノビエ1.5葉期 但し、移植後30日まで			湛水散布

シクロスルフアムロンを含む 農薬の総使用回数	プレチラクロールを含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内

28. 登録番号 23439 : ロータスMX 1 キロ粒剤、
登録番号 23452 : アピログロウMX 1 キロ粒剤
(ピラゾスルフロンエチル 0.30 %・ピリフタリド 1.5 %・プレチラクロール
4.5 %・メソトリオン 0.90 %粒剤)

作物名	適用 雑草名	使用 時期	使用量	本剤の 使用 回数	使用 方法
移植水稻	一年生雑草 及び マツバイ ウリカワ ホタルイ ミズガヤツリ ヘラオモダカ クログワイ オモダカ ヒルムシロ セリ シズイ アオミドロ・藻類による 表層はく離	移植直後 ～ ルビエ3葉期 ただし、移植後 30 日まで	1 kg/10 a	1 回	湛水散布
		移植時			田植同時散 布機で施用
直播水稻	一年生雑草 及び マツバイ ウリカワ ホタルイ ミズガヤツリ ヒルムシロ セリ	稲 1 葉期 ～ ルビエ3葉期 ただし、収穫 90 日前まで	1 kg/10 a	1 回	湛水散布

ピラゾスルフロンエチルを含む 農薬の総使用回数	ピリフタリドを含む 農薬の総使用回数	プレチラクロールを含む 農薬の総使用回数	メソトリオンを含む 農薬の総使用回数
1 回	2 回以内	2 回以内	2 回以内

29. 登録番号 23440 : ロータスMXジャンボ、
登録番号 23453 : アピログロウMXジャンボ
(ピラゾスルフロンエチル 0.75 %・ピリフタリド 3.75 %・プレチラクロール
11.25 %・メソトリオン 2.25 %粒剤)

作物名	適用 雑草名	使用 時期	使用量	本剤の 使用 回数	使用 方法
移植水稻	一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ミスガヤツリ ヘラオモダカ クロクワイ オモダカ ヒルムシロ セリ シズイ アオミドロ・藻類に よる表層はく離	移植後 3 日 ～ ルビエ 3 葉期 ただし、移植後 30 日まで	小包装(パック) 10 個(400 g)/10 a	1 回	水田に小包装 (パック)のまま 投げ入れる。
直播水稻	一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ミスガヤツリ ヒルムシロ セリ	稲 1 葉期 ～ ルビエ 3 葉期 ただし、収穫 90 日前まで			

ピラゾスルフロンエチルを含む 農薬の総使用回数	ピリフタリドを含む 農薬の総使用回数	プレチラクロールを含む 農薬の総使用回数	メソトリオンを含む 農薬の総使用回数
1 回	2 回以内	2 回以内	2 回以内

30. 登録番号 23588 : かねつぐーラジカルジャンボ

(シクロスルフアムロン 1.67 %・プレチラクロール 20.0 %粒剤)

作物名	適用 雑草名	使用 時期	使用量	本剤の 使用 回数	使用 方法
移植水稻	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ミスガヤツリ ヘラオモダカ ヒルムシロ セリ オモダカ クロクワイ	移植直後～ルビエ2葉期 但し、移植後30日まで	小包装(パック) 10個(300g) /10a	1回	水田に小包装 (パック) のまま投げ 入れる。

シクロスルフアムロンを 含む農薬の総使用回数	プレチラクロールを 含む農薬の総使用回数
2回以内	2回以内

3 1. 登録番号 23613 : O A T シェリフ 1 キロ粒剤

(イマズスルフロン 0.90 % ・ シハロホップブチル 1.8 % ・ ジメタメトリン
0.60 % ・ プレチラクロール 4.5 % 粒剤)

作物名	適用 雑草名	使用 時期	適用 土壌	使用量	本剤の 使用 回数	使用 方法	適用 地帯
移植水稻	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズカヤツリ ヘラオモダカ オモダカ(北海道、関 東・東山・東海、近 畿・中国・四国) ヒルムシロ セリ クログライ(北海道、北 陸を除く) エゾノサヤヌカゲサ(北海 道) アオミドロ・藻類による 表層はく離	移植後 5 日 ～ ルビエ 3 葉期 ただし、移植後 30 日まで	砂壤土 ～ 埴土	1 kg/10 a	1 回	湛水 散布	全域の普 通期及び 早期栽培 地帯

イマズスルフロンを含む 農薬の総使用回数	シハロホップブチルを含む 農薬の総使用回数	ジメタメトリンを含む 農薬の総使用回数	プレチラクロールを含む 農薬の総使用回数
2 回以内	3 回以内	2 回以内	2 回以内

3 2. 登録番号 24361 : アピログロウMXエアー粒剤

(ピラゾスルフロンエチル 0.75 %・ピリフタリド 3.75 %・プレチラクロール 11.25 %・メソトリオン 2.25 %粒剤)

作物名	適用 雑草名	使用 時期	使用量	本剤の 使用 回数	使用 方法
移植水稻	一年生雑草 マツハ ^イ ホタル ^イ ウリカ ^リ ミスガ ^{ヤツリ} ヘラオモダ ^カ クロク ^{ワイ} オモダ ^カ ヒルムシ ^ロ セリ シス ^イ アオミ ^{ドロ} ・藻類による 表層はく離	移植後 3 日 ～ ハビエ 3 葉期 ただし、移植後 30 日まで	400 g/10 a	1 回	湛水散布、水 口施用又は無 人航空機によ る散布
直播水稻	一年生雑草 マツハ ^イ ホタル ^イ ウリカ ^リ ミスガ ^{ヤツリ} ヒルムシ ^ロ セリ	稲 1 葉期 ～ ハビエ 3 葉期 ただし、収穫 90 日前まで			

ピラゾスルフロンエチルを含む 農薬の総使用回数	ピリフタリドを含む 農薬の総使用回数	プレチラクロールを含む 農薬の総使用回数	メソトリオンを含む 農薬の総使用回数
1 回	2 回以内	2 回以内	2 回以内

3 3. 登録番号 24651：メガオスMX 1 キロ粒剤

(ピリフタリド 1.2 %・プレチラクロール 4.6 %・ベンスルフロンメチル 0.51 %・
メソトリオン 0.90 %粒剤)

作物名	適用 雑草名	使用 時期	使用量	本剤の 使用 回数	使用 方法
移植水稻	一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ クログワイ オモダカ ヒルムシロ セリ アオミドロ・藻類によ る表層はく離	移植時	1 kg/10 a	1 回	田植同時散 布機で施用
		移植直後 ～ ハビエ 3 葉期 ただし、移植後 30 日まで			湛水散布
直播水稻	一年生雑草 及び ホタルイ ミズガヤツリ セリ	稲 1 葉期 ～ ハビエ 2.5 葉期 ただし、収穫 90 日前まで			

ピリフタリドを含む 農薬の総使用回数	プレチラクロールを含む 農薬の総使用回数	ベンスルフロンメチルを含む 農薬の総使用回数	メソトリオンを含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内	2回以内